

「キリストの体の部分として」(2022. 5. 15)

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。(Iコリント 12:26-27)

先月 17 日、2022 年度教会総会が開かれ、前年度の諸報告、今年度の諸方針が協議され、そして承認された。現住陪餐会員 40 名の内、出席者が 19 名、委任状提出者が 7 名、欠席者が 14 名であった。総会終了後、郵便の遅れもあり、委任状が 5 名分届いた。これまでになく教会員が多く出席され、委任状が出された。これは教会員一人ひとりが横手教会の一枝として、その営みに関わり、繋がっていこうとの思いの現れである。私は牧会を託された者として、主に感謝を捧げ、新しい年度への決意を新たにさせていただいた。

今回の総会では長老選挙が実施され、これまで長老だった N 兄、S 兄、S 姉、T 姉に加え、I 姉が新たに加えられた。祈ってきた各役割分担は次のようになった。書記は N 長老、礼拝・礼典は T 長老、伝道は S 長老、会堂管理・営繕は S 長老、学びは N 長老(兼務)、交わりは S 長老(兼務)、会計は I 長老(一般会計)、T 長老(特別会計・兼務) S 長老(補佐・兼務)。長老一人ひとりが横手教会のために自分のできる精一杯の決意を込めて、それぞれの役割を引き受けられたことが感じ取られ、これまた牧会を託されている者として、主に感謝したことだった。

このような長老はじめ教会員一人ひとりの思い、教会の一枝として教会の営みを担い、関わっていこうとする思いをどうしたら形あるものにできるだろうか。心に浮かんできたのは、現住陪餐会員 40 名一人ひとりがそれぞれの長老の担当の各働きに、係として奉仕してもらうことである。一人最低一役、場合によっては三役という事があるかも知れない。これは上掲の御言葉にあるように、キリストの体の一つの部分である一人ひとりが、共に苦しみ、共に喜びあう共同体であり、自分の場があり、自分が活かされる場があり、そして自分の両手が誰かの手と繋がれている共同体の形成である。

是非皆さん、この共同体の形成が協議される 6 月長老会のためにお祈り下さい。そして、自分がどんな奉仕ができるか、併せて考え置き下さるようお願い致します。